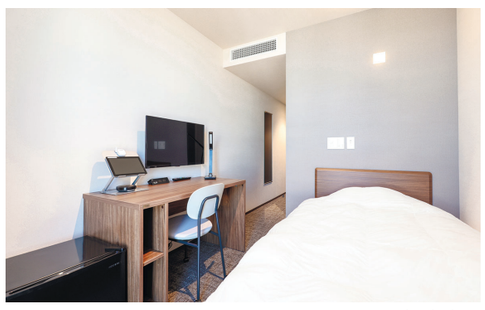
住友電設川崎テクニカルセンター 竣工

～真に社会から求められる総合エンジニアリング企業へ～

食堂


宿泊室

太陽光発電設備　撮影：エスエス東京

外観　撮影：エスエス東京

住友電設が川崎市高津区で整備を進めていた住友電設川崎テクニカルセンターが竣工した。４月１日に本格運用を開始する。安全危険体感装置、電気・空調設備などの実機、ショールーム機能などを備えた施設で新入社員教育、階層別研修、技術教育など同社グループの人材育成、技術開発の拠点となる。設計・施工は大和ハウス工業が手がけた。

住友電設株式会社
取締役社長
谷　信

このたび、『住友電設川崎テクニカルセンター』が竣工し、４月から本格稼働することとなりました。

当社は2020年４月に創立70周年を迎え、その記念事業の一つとして、社員教育のさらなる充実を目指して新設したもので、同年に策定した中期経営計画VISION24の重点施策「人材の確保・育成と働き方改革」の取り組みでもあります。

「人」は最も重要な財産

当センターは、実機研修室、安全危険体感室等、さまざまな機能を備えた当社として教育に特化した初めての施設であります。また、各種新技術の開発拠点およびショールームとしての機能のほか、屋上には太陽光発電設備も備え、環境にも配慮した施設となっています。

宿泊設備もあり、女性社員をはじめ、グローバル人材、障がい者等、誰もが利用しやすいようダイバーシティ・ユニバーサルデザインを取り入れております。

当社において、「人」は最も重要な財産であります。人材を育成し、技術力、チーム力の強化を図ることは、企業価値向上のためには不可欠と考えています。

今後は、当社の技術を結集した当センターを最大限に活用し、「真に社会から求められる総合エンジニアリング企業」を目指して、持続可能な社会の構築に貢献できるよう努めてまいります。

人材育成、技術開発の新たな拠点

人材開発部長　広瀬　勝実氏に聞く

魂のこもった教育・研修プログラムを実践

――川崎テクニカルセンター開設の経緯を説明してください。

「当社は創立70周年を迎えた２０２０年、中期経営計画『ＶＩＳＩＯＮ２４』を策定し、重点施策の一つに『人材の確保・育成と働き方改革』を掲げました。この施策を実行する取り組みとして、川崎テクニカルセンターの新設を周年記念事業に位置づけ、整備を進めてきました。本センターは、座学用研修室のほか電気・空調・通信設備のさまざまな実機を備え、専門知識や実践的な技術を習得する教育拠点となります。そのほか、外部の電波などに影響されず無線通信機器の性能を出荷前に検査できる電波暗室や外部の方に当社の技術を見ていただくショールーム、リモートで講義を行うＷｅｂ配信ブースなども設けています。また40室の宿泊室を併設しており、短期滞在型研修に対応しています」

――施設の具体的な活用内容は。

「一つは新入社員教育です。新入社員は、半年間にわたって業務に必要な心構え、基礎知識、技術などを学びます。例年50人程度が入社しており、集合教育を受けることで同期との仲間意識、仕事に対する動機付けを高めます。二つ目は、昇格者、管理職などを対象とした階層別研修で、年間60～70人が1泊2日で利用します。三つ目が技術教育です。受変電設備やキュービクル、特高用マンホール、空調室外機など実際の工事で使われる設備を設置し、実機に触れながら施工や点検に関わる技術を体得します。またフルハーネスを装着した高所作業体験や安全危険体感室でのＶＲを使った労働災害の疑似体験などを通し、安全意識を養います」

――建物としての特徴は。

「脱炭素社会構築の一端を担う総合エンジニアリング企業として自家消費型太陽光発電や蓄電池を設置して創エネ、省エネを推進し、ＢＥＬＳによるＮｅａｒｌｙ―ＺＥＢとＺＥＨを取得しています。そのほか当社の女性社員チームと大和ハウス工業様の設計部門の方々と一緒に計画した建物で、グローバル人材や障がい者などだれもが使いやすいダイバーシティを実現するユニバーサルデザインを取り入れているのも特徴です」

――社外向けの活用もお考えですか。

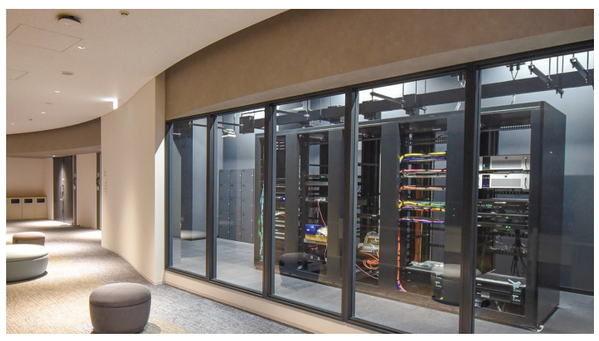
「基本は当社およびグループ会社社員の研修に活用し、外部に貸し出すことは前提としていませんが、防災用品や保存食などを備蓄し、災害時には近隣の方々の臨時の避難場所として活用いただけるよう準備しています。地域貢献は、当社の社会的使命と強く認識しており、川崎市のＳＤＧｓ登録・認証制度である『かわさきＳＤＧｓゴールドパートナー』にも申請しました」

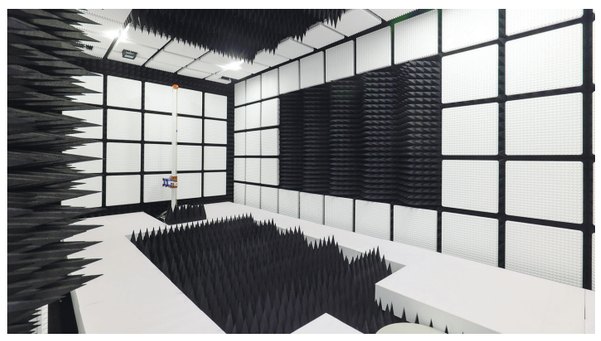
――開所に向けた決意を。

「魂のこもった教育・研修のプログラムを実践し、社員一人一人の知識、技術力を高め、生産性と業務効率を向上させることで働き方改革を実現し、ワークライフバランスが充実した企業文化の確立に努めていきます」。

シアターホール

大研修室


サーバールーム


電波暗室

施工のポイント

搬入計画を密に期日通り完成

本現場は住宅が多い中、工場が混在する地域で道路規制もあり、周辺道路も狭く南面と北面で高低差もあるため搬入計画が鍵を握る現場でした。限られた工期の中で完成させるために、一部基礎を後施工として仮設通路を設置し、大型車での搬入を可能とする計画としました。

施主である住友電設様の施工班にもご協力いただき、条件が悪い中での搬入・揚重に関してもクリアすることができました。

本建物は研修エリアと宿泊エリアがあり、さまざまな用途のある建物です。共用部には意匠性の高いエリアも多いため内装工事には苦労する点も多かったのですが、設計担当者やお客さまと現地で打ち合わせを重ね形にすることができました。

住友電設様は、弊社の設備工事を施工いただいており、以前より仕事上の付き合いはあったのですが、同社の研修センターを施工させていただくことになるとは思ってもなく、担当できて非常に光栄でした。今後の現場でご一緒させていただくことがますます楽しみになりました。

本研修センターで学んだ方々が成長を遂げて、住友電設様がますますの発展を遂げることを心よりお祈りしております。

大和ハウス工業株式会社
東京本店　東京工事部工事第二部　田島雄介

設計コンセプト

社員相互のつながりを感じられる「場」

本施設は、〝この場での研修を通して、技術力・創造力をより活性化させ、社員相互のつながりを感じられる「場」をつくること〟を設計コンセプトとしました。施設内は大きく低層階の研修エリアと上層階の宿泊エリアの二つに分かれています。

大規模な集合研修に対応する１・２階の研修室エリアは柱スパンを11ｍと大きくすることで無柱空間を実現するとともに、フレキシブルにパーテーションで可変する計画としました。３・４階にある宿泊エリアは回遊型プランを採用し、外周部に宿泊室、中央部にはコミュニティ空間を設け、自然光の入りづらい中央部には吹抜けとトップライトを設置することで、自然光が差し込む心地よい空間で人のつながりを感じ、コミュニケーションが偶発的に生まれるプランとしました。

建物では研修エリアで「Nearly ZEB」、管理者住戸で『ZEH』を実現し、祈祷室の設置や水害対策などSDGs、BCPにも配慮しています。ファサードの色調は住居が多い建設地に合わせ、温かみのある暖色系を採用しています。外部に面して大きな窓を多く設けないことで近隣へ配慮し、大開口の部分には歴史ある住友グループの井桁をモチーフにしたルーバーにより、視界をコントロールしています。また、外部からは見る角度によって井桁の模様が見え隠れし、建物の表情が変わるデザインとなっています。

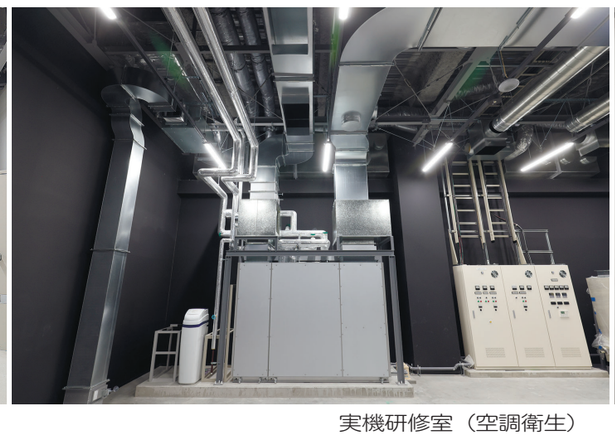
大和ハウス工業株式会社
東京本店　東京建築設計部　主任　武田祥佳

工事概要

■工事名称：（仮称）ＳＥＭ研修センター新築計画
■所 在 地：川崎市高津区下野毛３丁目９番23号
■建 築 主：住友電設株式会社
■敷地面積：2,938.03㎡
■建築面積：1,573.78㎡
■延床面積：5,233.07㎡
■構　　造：Ｓ造
■階　　数：地上４階
■設　　計：大和ハウス工業株式会社東京建築一級建築士事務所
■施　　工：大和ハウス工業株式会社東京本店
■工　　期：2021年11月４日～2022年12月23日

安全危険体感室　撮影：エスエス東京

実機研修室（電気）


実機研修室（空調衛生）

実機研修室（プラント）

住友電設株式会社
【大阪】〒550-8550 大阪府大阪市西区阿波座 2-1-4　【東京】〒108-8303 東京都港区三田 3-12-15

Daiwa House 大和ハウスグループ
大和ハウス工業株式会社
〒102-8112 東京都千代田区飯田橋三丁目 13 番 1 号　電話 03-5214-2111